



鶴見 久美子 議員



子宮頸がん予防ワクチン接種について

問 子宮頸がんワクチン接種の積極的勧奨が再開され、来年度から接種が始まる見通しとなった。定期接種対象者への通知実施や、勧奨中止の間に接種を逃した方への救済措置など市の所見、課題等を伺う。

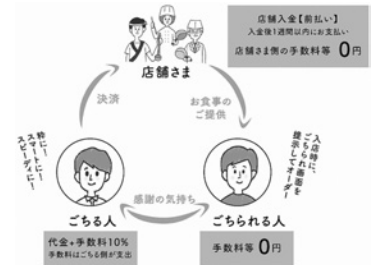
答（健康推進部長） 積極的勧奨の再開については、厚生労働省より令和4年4月からの順次実施や留意点が示された。今後

の通知方法は古河市予防接種委員会で検討していきたい。救済措置に関しては、国が公費による接種機会の提供等に向けて議論を開始している。市としては方針が決定し次第、医療機関等と連携し取り組んでいく。

子ども食堂助成事業導入について

問 子どもが一人でも行けて無料や低額で利用、また孤食の解消や食育、さらに交流の場の役割を果たす子ども食堂であるが、ボランティアの協力や資金などの課題も多い。アプリケーション「ごちめし」を活用し、登録している飲食店で食事の提供を受けることは貧困家庭やコロナ禍では必要であると考えているが市の所見、課題等を伺う。

答（福祉部長） 「ごちめし」は不特定の子どもの飲食費を軽減できるが、地域に密着したコミュニティの場となることが理想と考える子ども食堂の理念、目的とは異なるアプローチ方法とを感じる。それらをどう整理していくか、また、事業に参加していただける飲食店の募集や提供食数、費用の助成、資金調達が課題である。アプリの活用で、子どもが食事を食べられる効果はあると思うので、今後、手法について研究したい。



ごちめしアプリの境町子ども食堂より引用



高橋 秀彰 議員



流域治水の推進について

問 気候変動がもたらす激甚化する水害の対策では、堤防の強化や河道の掘削、雨水幹線の整備等、現在の治水対策を加速するとともに、流域全体を俯瞰し、河川への雨水流出抑制対策や流域における雨水貯留機能の充実等、流域治水を柱に据えた治水対策が必要と考えるがどうか。

答（市長） 国が流域治水を推進する背景には、近年の激甚水害

の頻発や、今後も気候変動による降水量の増大、水害の激甚化、頻発の予測がある。市としては、国や県、流域自治体と連携しながら、水害を軽減させる事前防災対策に取り組み、安全安心の確保に努めたい。

答（総務部長兼危機管理監） 古河市地域防災計画に河川改修、雨水流出抑制施策の推進、雨水貯留施設等の設置についての項目があり、流域治水関連法に基づき再度見直し、文言の追加を行っていきたい。



増水している渡良瀬川

带状疱疹ワクチン接種費用の助成について

問 日本人の成人の90%は、带状疱疹の原因ウイルスが体内に潜伏している。ワクチン接種を行うことで、免疫力が高められることができる。市民の健康を守るためにも、带状疱疹ワクチン接種費用の一部助成の推進が必要と考えるがどうか。

答（市長） 带状疱疹については、ワクチン接種により発症を低減し、重症化を予防できると伺っている。市民の健康を守る観点からも、ワクチン接種の必要性は高いと理解している。国が定期接種化を検討している審議会の動向を注視していきたい。